ふ者あり、小兒は飢餓に泣き妻は料店の書札を見て膽を潰す人少なしとせず、噫！社會の裏面殆んど然り、若し僧侶に見んか、自己の本分を忘却し、そが責任の幾分を俗服にのがれてすら酒店に出入するに至つては心地憐むべきものか、其の結果寺門の經營はおろか、寺有物件を賣却す或は一方に費やす故に、一方求むるの策を講ずるに急、只目にあるものは金と酒、然も附隨物たる女のみ汲々として求財に奔走し、金の前には匹夫にも尙よく敬禮するの狀、志あるものゝ憤慨激努其の頂に達する處僧侶に酒の害毒なるを知るべきなり尙寺院は殊に酒に緣多も、鎭守の祭禮或は其の他種々の場合酒を用ゆる彼等の多く酒癖として過度にすぎ易し、從つて自己の地位並に周圍の事件を察するもの稀にして傍若無人の振舞に出るを常とす、神靈たるべき寺院も如斯んば果して如何!!察するに餘あり。

山寺　東溟

桂花香盡古龕幽　向晚前林宿鳥投
一片白雲寒墮影　磬聲夕作一山秋

同

石室鈔經思入微　一燈隔竹動涼霏
滴々徹耳惟流水　月落西巖僧未歸

同

石壇香冷桂花幽　潭影虛涵萬象秋
嵐翠撲眉霏作雨　打鐘僧下夕陽樓

山寺

石磬聲幽隔竹聞　桂花如霰落紛々
夕陽潭水孤僧影　獨倚寒巖飽看雲

同

諸天只隔白雲層　月落寒潭夜色凝
與佛同分龕半壁　萬梅花擁一詩僧

同

掃石焚香古佛前　三更皓月四禪天
乾坤一白梅花雪　疑是毫光照大千